



イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 625 回 テレビが、ちっとも、面白くない！

2015.4.19

テレビが面白くない…と思っているのは、小生だけではないらしい。

2012 年の朝日新聞に記載された記事によると、国民の 75%が「最近のテレビ番組はつまらない」と回答している。平日でも平均3時間半もテレビを見て、「世界に冠たるテレビ好き」と言われる日本人。

しかし、最近のテレビ番組に対する不満は年々高まっているようである。

株博報堂が調査した「テレビ視聴実態調査 2014」によると、テレビは真剣に見るものではなく、75.2%が「ながら見」、見ていなくても、BGM的にテレビをつけておくことがある人が 65.2%いる。見たとしても半分以上の人が途中でチャンネルを頻繁に変えながら見るようだ。1週間に 10 本以上の番組を録画している人が 35.8%いるが、録画しても結局見ずに消す番組がある 52.0%、録画したテレビ番組は、途中を早送りしながら見る人は 52.5%もいることが分った。

所詮、番組そのものが面白くない。視聴者のマインドなどそっち抜けて制作されている。

チャラチャラした芸もない下種(ゲス)芸人ばかりで、鬱陶(うっとう)しい。スタジオで、その辺のおにーちゃんの会話をしているだけ。しかもその傾向は、民放こよなく同じ、芸人の内輪ネタが横行し、暴力的な内容、刺激的な内容だけが aumentando しているような気がしてならない。

「気色悪さ」と「下品極まりなさ」が全国の拡散されており、文化的、情報的品格のかけらもない。

どこを見ても吉本興業とジャニーズ事務所ばかり、NHK すら毒されてしまった。

マンネリ感が出たり、視聴率が悪くなって止めたい番組も、なかなか止められなくなっているという悪循環に陥っている。大手プロダクション支配下では、例えばジャニーズの人気タレントを押さえることがドラマで成功する早道だと、かたくなに信じられてきた。実際に SMAP や嵐のメンバーには 3 年も先を見越してオファーを出し、出演 OK が出されたと同時にシナリオを構成し、共演者を当てはめていくというやり方が主流になった。日本の俳優は、演劇や演技を勉強しなくてもテレビドラマに出ることを許される。良質なドラマができる訳がない。本末転倒がまかり通っている。

ニワトリが先か、卵が先か、いずれにしろ民放テレビ局にお金がない。ロケなし番組で、2 時間、3 時間のスペシャルが増えているのもテレビ局側の事情が伺える。制作費が 1 時間 3,000 万円かかるとして、それを 2 時間番組にすればセットや出演者はそのままだから、4,000 万円程度で作れる。そうすれば 1 時間当たりのコストは下げられるが、その分、確実に内容が薄まるのは当然の帰結であろう。

時間枠を複数のスポンサーで制作するため、CM が多くなり、視聴率だけが共通の指標になる。

かつては挑戦的な番組を作って視聴率が低迷しても、スポンサーが納得する内容なら良かった。

民放と言えども、そんな意義ある情報・教養番組があったと思うが、今は皆無となった。

ドキュメンタリー風番組も、実は「提灯持ち」だとすれば、視聴者を愚弄し、欺く犯罪行為に近い。

公共の電波を低俗化し私物化する、テレビ制作に関わる職業人のプライドはどこへ行ったのか？

この業界には、マーケティングがない。傲慢さだけが目立ち消費者心理を探ろうとする、意欲もない。

インターネット動画の情報量、自由選択度、利便性等を考えると、テレビのシェアは確実に WEB に奪われてしまうこと、業界人は意識しているのだろうか。

低品質・マンネリ・没個性・儲け主義路線の大量供給では、とても WEB に勝てるはずがない。